

広報

環境カウンセラーちば

第39号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

環境大臣から地域功労者表彰を受ける

当協議会は平成8年度の環境カウンセラー登録制度の創設に伴い、千葉県内での初年度登録者の56名により平成10年2月に任意団体として「環境カウンセラー千葉県協議会」を設立して12年半余りが経過しています。

さらに平成15年7月には会員数が100名を超え、それまでの任意団体を解散し、「特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会」（略してEC千葉）を設立してから7年の歴史を重ねています。

これまでつぎのような活動をしてまいりました。

- エコアクション 21 (EA21) の普及のためのセミナーやコンサルティング
- EA21 の県内展開のために地域事務局千葉県環境財団の活動への協力
- 省エネナビによる省エネ生活のフォローアップ
- 県との協働事業として、地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための講習会の開催
- 県 NPO パワーアップ補助金事業を皮切りに県内高校での環境学習授業の展開
- 県との協働事業として、浄化槽使用者に対する水質保全の講習会を開催して啓発

こうして平成20年には設立10周年として記念式典、記念講演会、八幡平・十和田への自然観察会、記念誌発行などを行ってお祝いをしたところです。

このような活動を通して県内の環境保全に寄与したことが評価され、昨年11月3日には、森田健作千葉県知事から荣誉ある「文化の日千葉県功労者表彰」を受けました。

さらに本年4月、NPO 環境カウンセラー全国連合会 (ECU) から、環境大臣による地域功労者表彰があるので応募したらどうかとのお話をいただき、あつかましくも応募することとし、環境省関東地方環境事務所に功績調書などを提出しました。

そして5月中旬、果たせるかな、環境省関東地方環境事務所から「貴協議会を地域環境保全功労者として表彰することに決まった」との朗報をいただきました。

表彰式は6月7日、千代田区のグランドアーク半蔵門で行われ、折りしも鳩山内閣の総辞職で環境大臣は出席されませんでしたが、小林 光環境事務次官から、環境保全功労者12件（11名、1団体）、地域環境保全功労者53件（19名、34団体）が表彰を受けました。

表彰式のあとの懇親会では、小林 光環境事務次官をはじめ、南川 秀樹大臣官房長、寺田 達志地球環境局長、小林 正明大臣官房審議官などの環境省の方々と懇談し、当協議会に祝意と激励の言葉をいただきました。

この表彰を励みとして、当協議会はさらなる活発な活動を展開していきたいものと思います。

（理事長 國廣 隆紀）



左から環境保全功労者受賞の戸村副理事長と國廣



寺田地球環境局長、小林審議官、松木様(EC 杉並)と

第8回通常総会を開催

第8回通常総会が平成22年5月23日(日)に千葉市市民会館特別会議室において開催された。

会員総数126名のうち53名が出席(ほかに委任状53名)し、定款第27条により定款第24条に定める定足数を満たし通常総会として成立した。

議長に國廣隆紀理事長を選任し、次いで國廣議長の下で書記に二宮恵氏、長谷川三喜雄氏を、議事録署名人に戸村泰氏、辻川毅氏を選任し、理事長挨拶に続いて次の議案を審議した。

(1) 第1号議案「平成21年度事業報告ならびに決算報告」：國廣理事長が理事長総括を、服部事務局長が各部等の報告と決算報告を説明した。

(2) 第2号議案「平成19年度監査報告」：吉海監事から「事業の遂行および財産の状況は公正かつ妥当であることを認める」との監査報告がなされた。

第1号議案、第2号議案ともに質問・意見がなかった。そこで議長が定款第28条に基づき第1号議案および第2号議案の議決を諮り、賛成多数で承認された。

(3) 第3号議案「平成22年度事業計画案ならびに予算案」：國廣理事長が理事長運営方針を、各部等の計画と予算案を服部事務局長が説明した。質問・意見はなかった。そこで議長が第3号議案の議決を諮り、賛成多数で承認された。

(4) 第4号議案「役員の改選」：國廣理事長より役員は2年任期であり1年が経過したところであるので今年度は役員の変更は行わないとの説明があった。

他に緊急動議はなく、以上で議事はすべて終了し、議長は閉会を宣言した。

NPO法人となって7年が経過し、この間、毎月定例で理事会を開催し、会員の英知を結集して各事業に取り組み、着実に実績を積み重ね、千葉県内環境保全活動団体としての知名度を広め、信頼と信用を定着させてきた。平成21年度には、

(1) 環境保全推進事業としては、「環境セミナー」、「企業・施設見学会」、「秋季研修会」、「環境公開講座」、「自然観察会」を本年度も継続開催し、当協議会会員の研修機会とするとともに、一般市民の環境意識の啓発、向上に役立てた。

(2) 環境保全啓発事業として、例年どおり「エコメッセ2009 in ちば」に参加した。また、各地の環境イベントに積極的に出展・参加し、当協議会の活動を紹介し、知名度向上に資した。

(3) 講師派遣事業においては、高校・工専の環境学習、

自治体の市民環境大学に講師を派遣し、市民ボランティア団体の「子ども環境学習会」に講師として協力した。また、テキスト・機材の一層の充実をはかり、学校等のニーズに幅広く対応できるよう努めた。

(4) 行政機関、事業者などに対する事業としては、エコアクション21地域事務局・千葉県環境財団と連携し、「EA21普及セミナー」の開催、EA21グリーン化プログラムの実施など、EA21の一層の普及に取り組んだ。

また、本年度も、「企業環境セミナー」、「内部監査員養成講座」を開催し、中小企業の環境経営の支援に取り組んだ。

(5) 環境問題やまちづくりに関する諸調査、政策の提案に関する事業においては、平成21年度県とNPOとの協働事業「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施」に特別プロジェクト体制で取り組み、高い評価を得て完了することができた。

(6) その他の事業として、広報「環境カウンセラーちば」を7月と11月に発行した。環境省関東地方環境事務所との連携・協力、環境カウンセラー全国連合会(ECU)との協力関係を従来どおり続けた。

この中でも、平成21年度県・NPO協働事業として「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施」に取り組み、県内11地区で延べ455名の浄化槽使用者に対し、浄化槽の適切な維持管理が河川・湖沼等の水質保全のための最重要課題であることを訴えたことは特筆される活動であった。

(事務局長 服部 達雄)



第20回環境セミナー

(第8回通常総会 特別講演)

「地球温暖化対策の動向とチャレンジ25」

講師 環境省地球環境局研究調査室

室長 小野 洋 氏

昨年(2009年)9月22日、日本は国連気候変動サミットで、環境を守り、未来の子供たちに引き継ぐため、日本の温室効果ガスの排出量を2020年までに、1990年比で25%削減すると表明しました。

この中期目標の達成にあたり、今までの[チーム・マイナス6%]を解消し、2010年1月14日から[チャレンジ25キャンペーン]を展開することになりました。

そこで、この目標達成に向けた取り組みとして、「地球温暖化対策基本法案」と「中長期ロードマップ試案」が作成中であるため、環境省地球環境局の小野 洋研究調査室長に講演をしていただきました。

講演：

1. 地球温暖化の影響

- ・地球温暖化の進行：過去100年間で世界の平均気温は0.74℃上昇。最近50年間の気温上昇傾向は過去100年間のほぼ2倍である。長期スパンで判断。
- ・世界の温室効果ガス排出量：人為的排出量と自然吸収量をバランスさせる必要があるが、排出量が2倍以上である。
- ・気候変動による影響：国内の農業に影響が大きい。果樹については全ての都道府県で影響がある。国内の被害額：対策を行わない場合の被害額
1981～2000年からの洪水氾濫被害の増加額
2030年代 2050年代 2070年代 2090年代
1.3兆円 4.9兆円 8.7兆円 8.3兆円
2090年には海面上昇による西日本高潮被害が7.4兆円と推定される。
年を経るごとに影響が大きくなり、子や孫の世代の負担を軽減するために気候を安定化するための積極的な対策が急務である。

2. 国際社会への25%削減目標の表明

- ・2009年9月22日、国連気候変動サミット(ニューヨーク)での鳩山総理演説、1990年比で2020年までに25%削減を目指す。途上国への支援については「鳩山イニシアティブ」として提案する。
- ・2009年12月COP15(コペンハーゲン)：混乱した会議であった。

削減の長期目標：気温上昇を産業革命以前から比較して2℃以内に抑えるため、地球全体の排出量の大幅削減の必要性に合意した。

削減の中期目標等：先進国は削減目標、途上国は削減行動を2010年1月までに届出。

途上国支援：短期的 先進国が300億ドル

わが国は150億ドルを表明

長期的 先進国が1000億ドル

コペンハーゲン合意への賛同状況

賛同の意を示した国はG8、中、印、ブラジル、南アを含む123ヶ国。賛同国のエネルギー由来のCO₂排出量合計は世界全体の84%(法的効力はない)。削減目標・行動を提出した国は77ヶ国。

3. 目標達成に向けた取組

3.1 「地球温暖化対策基本法案」

中期目標：2020年までに1990年比25%を削減

長期目標：2050年までに1990年比80%を削減

この法案は、他の基本法が理念的なものであるのに対し法的義務を含めている。

(2010年3月12日に閣議決定したものの現在は廃案となっている)

3.2 「地球温暖化対策に係わる中長期ロードマップ」

小沢 鋭仁環境大臣の試案として具体的施策を提示。

中長期ロードマップで伝えたいこと

- ① 地球と日本の環境を守るためには、温暖化対策は喫緊の課題。2020年には25%削減、2050年に80%削減を実現するための対策・施策の道筋を提示。
- ② エコ投資を進め、低炭素生活スタイル(エコスタイル)を実践することにより、我慢ではなく快適で豊かな暮らしを実現することが可能。中長期目標の達成のためには、「チャレンジ25」を通じた、国民一人ひとりの取組が重要。
- ③ 温暖化対策は負担のみに着目するのではなく、新たな成長の柱と考えることが重要。



低炭素社会構築のための投資は市場・雇用の創出につながるほか、地域の活性化、エネルギー安全保障の確保といったさまざまな便益をもたらす。

(環境学習センター

副センター長

阿部 邦夫)

第8回白井市環境フォーラムに出展

恒例の白井市環境フォーラムが、2月27日(土)に白井市文化会館で開催された。

「自然と環境は自分たちで守る」という白井市のねらいは「食を通して環境を考える」がテーマである。

日本の食料自給率40%のレベルの中で、農地の多い白井市にとって食住環境を整備発展させていくことは大切なことである。

横山 久雅子市長のあいさつ及び辻川 毅実行委員長からテーマの趣旨説明があり、白井市の農業振興状況について基調講演があった。

次いで事例発表に移り、小中学校の温暖化対策とエネルギー問題、学校給食と地産地消、食育問題について報告された。さらに休憩後、消費生活モニター、農産物加工研究会、イオンリテール側から食品の賞味期限の安全、食育体験などを通じての食環境の実績について報告があった。フォーラムの参加者は、別会場の環境関連のパネル展示を見て白井市の市民としてさらに認識を深められたようである。

当協議会としては地球温暖化問題、廃棄物不法投棄、ごみ分別、再資源化問題について展示説明を行った。



辻川 毅実行委員長



当協議会の展示パネル
(廃棄物対策センター副センター長 大山 長七郎)

第6回ちばし手づくり環境博覧会に出展

平成22年6月5日(土)～11日(金)千葉市が開催した第6回手づくり環境博覧会に当協議会も出展した。

- 1) 出展場所—きぼーる1階 アトリウム
- 2) 出展詳細—6月5日～6日は有人展示
7日～11日は無人展示
- 3) 出展団体—33団体
- 4) 来場者数—1,100名(6月5日～6日)

博覧会に出展するよう理事会から依頼を受け水環境対策センターは浄化槽の啓発関係では、すぐに対応できるので、テーマは「浄化槽の適正管理で水質保全」で申し込んだ。9月のエコメッセでも使えればさらに良いと考えた。しかし、このテーマでは、千葉市の下水道は普及率が高くほぼ100%なので馴染まない。

そこで、テーマを①当協議会と水環境対策センターのPR ②千葉県の水環境③浄化槽管理と下水道使用上の注意、と3部構成に変更した。加えて無人展示用に合わせたので写真のような説明調の展示になった。

有人展示中の来訪者の反応は良く、特に問題はなかったが、無人展示期間では情報の詰め込みとなり結果的には、いい展示とは言えず反省材料となった。

3. アンケート結果の主なもの(回答総数311)

1) 出展を見て興味を持った分野は?

環境学習 81人、温暖化対策 86人、環境保全 81人に対して、ゴミ、リサイクルが162人とダントツであった。

2) これからできること、やってみたいことは何か?

環境学習 14人⇒暮らし方を変える 14人

環境保全 39人⇒水や川に関心 22人

温暖化対策 74人⇒歩く、車を使わない 12人

⇒電気の節電・消灯 38人

ゴミ・リサイクル 157人⇒分別 35人、

⇒リサイクル・堆肥化等 3人、その他 50人



当協議会の展示パネル
(水環境対策センターセンター長 古畑 義正)

木更津高専への出張授業報告

昨年に引き続き、4月に国立木更津高等専門学校（木更津高専）の環境都市工学科の湯谷講師より外部講師派遣の依頼があった。

昨年は、就職前の5年生に対して、NPO法人としての当協議会の活動を紹介したが、今年度は、環境都市工学科1年生40名に対して、「環境とまちづくり」についての講義ということであった。

事例として、下記の3例を紹介した。

県内で取り組んできた実務経験を通して、「環境に配慮すること」とはどういうことか？ また、環境という切り口から考えられる「住みよいまちづくり」とは、どういうことか？などを、学生たちに考えてもらうヒントを提供した。

①そでがうら地球温暖化対策地域協議会の活動

（國廣隆紀）

②山武市松尾・蓮沼地区美しいむらづくり支援事業

（國廣隆紀）

③木更津の環境とまちづくり （吉田昌弘）

①、②については、写真などを含めて地域の省エネ対策や、生物に配慮した圃場整備などを紹介した。

③は、市役所が収集した環境測定データと市民生活の関係や、市全体の環境への取り組みを紹介した。

盛り沢山の内容であったが、フレッシュな1年生で、目を輝かせて聞いており、環境問題への関心の高さを伺わせた。

なお、授業は「環境都市工学概論Ⅰ」の講義の一環であったので、期末には、学生達のグループ研修の成果発表会があり、参加し講評を行った。

木更津高専の上村教授、湯谷講師からも感謝され、次年度以降も継続して当協議会からの外部講師の授業の機会を持ちたいとの意向であった。

（環境学習センター副センター長 吉田 昌弘）



開催報告

EA21 地域普及セミナー

環境省が推進するエコアクション21(EA21)の今年度初めての普及セミナーを以下の要領で開催しました。

日時 平成22年7月30日（金）13:30～17:00

会場 千葉商工会議所 14階第2ホール

主催 NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会

千葉商工会議所

主催者挨拶 千葉商工会議所常務理事 小川隆氏

講演 ①今、何故、エコアクションか？

講師 種本利治氏（会員、EA21 審査人）

講演 ②EA21の取組方法とそのメリット

講師 野口 久氏（会員、EA21 審査人）

事例紹介 EA21に取り組んでの成果

③精密機械部品製造 ㈱サンコー

④福祉用具のレンタル販売 ㈱ハートウェル

講演 ⑤EA21 認証・登録の手続きとそのポイント

講師 服部達雄氏（地域事務局員、EA21 審査人）

個別相談 7社

参加者：外部から55名、環境カウンセラー16名、

講師、主催者合わせて83名で開催しました。

アンケート(27名)で興味のあった講演は、

上記①5名、②16名、③16名、④9名、⑤6名。

取組み中または取組み決定9名、ISO 取り組み2名、社内調整中16名、取り組みず3名。コンサル希望4社。

今までになく受講者は真剣で質疑も飛び交い盛会でした。個別相談は過去最高で何れも熱心に相談されていました。ISO との比較で悩んでいる、廃棄物量の算出方法が分からない、ISO からの乗換えを検討している、費用が十分分からないなど。いずれも真剣で今後が期待できると感じました。

千葉県の認証・登録数は約120件で全国12位であります。今年度中に180件に到達するかも知れません。

（環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵）



見学報告

ゼロエミッションハウス見学記

平成22年6月23日(金)午後、茨城県古河市にある積水ハウス(株)関東工場内のゼロエミッションセンターを総勢13名で訪問した。

まずウエルカムホールで概要説明を聞く。

同センターは、このホールの他にメイン施設であるゼロエミッションハウスと資源循環センターから成り立っている。

ゼロエミッションハウスは、2008年7月の洞爺湖サミットで、積水ハウス、資源エネ庁、NEDOなどの共催で建設・展示された未来型住宅「ゼロエミッションハウス」を移築したものである。

資源循環センターは、家づくりで発生する建築廃棄物を100%リサイクルするための施設である。

この2つの施設は一般に公開されており、月に3~4千人の見学者が訪れるとのことである。

積水ハウスが掲げる「ゼロエミッションハウス」の考え方は、住宅の建築時、生活時及び解体時のいわゆるライフサイクルを通じてCO₂排出量を、省エネ技術等で極力削減した後の残りの量と同等以上の自然エネルギー自家発電(太陽光発電など)を行って、CO₂排出量を相殺して住宅からのCO₂排出オフとすること及び住宅部材生産、輸送、施工までの廃棄物を100%リサイクルすることで建築廃棄物オフとすることである。

埋め立て処分による地球への負荷を避けたものである。

見学は、先ず、ゼロエミッションハウスからスタートした。

この建物は60坪の平屋で、洋間の居間、和室1、厨房、書斎、寝室、洗面所、トイレから成り立っている。

建物自体の省エネ技術では、ハイブリッド断熱ボード、真空断熱ガラス、スナゴケを利用した屋根緑化、調湿タイル、などである。

照明装置では、蛍光灯型LED管、有機EL照明(居間)、日中の自然光を室内照明として数ヶ所で利用できる光ダクトシステムなどである。

家電製品としては、人の動きの状況から快適性省エネ性を判断するルームエアコン、有機ELテレビ、高効率ヒートポンプの給湯器、節水型便器、オゾン技術利用洗濯乾燥機などである。

また、創エネルギー技術としては、14.5Kwの屋根一体型太陽光発電、小型風力発電機、家庭用燃料電池システム、発電窓ガラス、蓄電池システムなどである。

つぎに、資源循環センターを見学した。

ここでは、関東と山梨地域の建築施工現場、リフォ

ーム施工現場、メンテナンス現場などから発生する廃棄物を現場で27種類に分別し、この資源循環センターへ運搬回収している。

この資源循環センターでは、これらをさらに最大80品目に分別し、資源として100%リサイクルしている。

リサイクルの方法は、マテリアルリサイクルが87%、サーマルリサイクルが10%、燃えにくいものはガス化溶融処理で燃料ガスとスラグにしてリサイクルし、これが3%である。

リサイクルの実施は、自社リサイクルと業者委託があり、すべてこの資源循環センターで行っているわけではない。特に、サーマルリサイクルやガス化溶融は業者委託とのことである。

今回見学した省エネ技術、新エネ技術、環境技術は、開発中のものもあるが、これらを組み合わせることで快適な生活を実現しながらCO₂オフの暮らしの可能性を示唆するものである。

そのためにはわれわれ環境カウンセラーが、これらの技術導入の先導者となり普及に努めなければならないと改めて感じた次第である。

最後に、この見学会をお世話くださった当協議会の辻川 毅地球温暖化対策センター長に感謝の意を表したい。

(アドバイザー 小関 光二)



屋根にコケを生育して日射を防ぐ

自然観察会へのご案内

大自然がいっぱいの佐渡にわたり、「トキ」を観察しよう

日程

9月30日(木)

11時00分新潟港 佐渡汽船岸壁集合

(集合場所は後日、地図で詳細連絡)

11時30分 新潟港発、12時35分両津港着

(昼食は各自済ませて下さい)

13時00分 貸し切りバスで自然観察に出発

大佐渡スカイライン→相川金山→尖閣湾→七浦海岸

17時頃 相川(七浦海岸)着 宿へ

19時頃 食事・懇親会

21時 第1日日程終了。

10月1日(金)

7時00分 起床、朝食後

8時00分 貸切バスで出発

七浦海岸→真野→小木→宿根木→佐渡トキ保護センター→両津

15時00分 両津港到着

15時30分 両津港発

16時35分頃 新潟港着 解散

第1日は千葉駅7時頃到着で十分現地集合時間に間に合う様に計画します

第2日は新潟駅発17時で21時頃千葉駅到着可能です
(天候等によって一部変更の可能性がありますが)

費用

集合時 新潟港で会費 35,000円～37,000円を徴収

(ジェットfoil代込み)

なお、この他に新潟港まで千葉からの新幹線その他費用として往復概算 21,000円/人が必要

申し込み

未だ数名の空きがありますので至急ご連絡下さい

E-mail qqew2up9@air.ocn.ne.jp

Tel 090-2247-6751(mail又はFAXをお願いします)

(幹事 環境学習センター副センター長 林 正徳)

佐渡自然観察会について

第5回目となる当協議会の県外自然観察会は今年度、佐渡を対象地として行うことになりました。

佐渡島は東京都区部の1.5倍程ある、わが国離島の中で最も面積の広い島であり、大佐渡山脈、国仲平野、小佐渡丘陵とNE～SWに併走する地域からなる変化に富んだ自然景観に恵まれた島です。

一方、8世紀頃から佐渡国として、国府が置かれて以来、順徳上皇をはじめとする政争に破れた、京からの流人のもたらした[貴族文化]、金山の発展で江戸から持ち込まれた[武家文化]、日本海航路によって西日本や北陸から直接運ばれた[町人文化]が、島内[国仲]、[相川]、[小木]、それぞれの拠点地域に色濃く残された歴史の島ともいえます。

さらに生物多様性の保全が社会に浸透するきっかけの一つにもなっている「トキ」の野生復帰が、文字通り試行錯誤を重ねつつある話題の島でもあります。

今回は1泊2日と、かなりタイトな日程になっておりますので、当日の天候に対応できるよう見学箇所の選定は複数案を用意し、臨機応変な対処を心掛けています。

島嶼部なるが故の実質27時間の滞在となりますが、宿は、夕日の美しいことで知られる島の西北端・七浦海岸に確保しました。

食事・懇談の後は、潮騒を枕に往時を偲びつつ、お休みいただければと願っています。

この間にあって、願わくは、大佐渡山脈の一端から北は鳥海から西は白馬に至る大眺望を始め、佐渡の自然と歴史、加えて、一度絶滅した生物種の導入繁殖、野生復帰の試みの困難さなどについて、現地で共に学ぶ機会を大切に過ごしたいものです。

(案内人 顧問 小角 浩)



開催案内

第13回企業環境セミナー

当協会では、企業環境セミナーと称して、ISO 14001 の認証取得済みで改善向上をめざす企業及びこれから認証取得をめざす企業を対象に毎年セミナーを開催しています。

今年は10月15日に千葉商工会議所で開催します。

今回で第13回目です。当初は、ISO 14001 のシステム構築を啓発することを目的にしていたのですが、次第に事業者が成熟され継続的改善をめざす方向に変わってきました。従って参加者も構築を検討している企業だけでなく認証取得済企業が多くなっています。

最近、ISO は何のメリットがあるのか議論されることが多く、そのような背景を踏まえて今年は、「経営に役立つ ISO 14001」というタイトルで開催します。

概要は以下のとおり。

日時 平成22年10月15日(金)13:00～17:00

場所 千葉商工会議所 14階第1ホール

主催 当協会及び千葉商工会議所

基調講演 経営に役立つ ISO 14001

(企業の実態とその改善点)

講師 荒野喆也氏(会員、ISO 審査員)

事例紹介

(1) 広栄化学工業株式会社(化学製品の製造)

(2) 千葉オイレッシュ株式会社(産業廃棄物事業)

講演 原理・原則に沿った目的・目標設定と運用

(企業の目的を達成するために EMS で環境パフォーマンスに良い結果をもたらす方法)

講師 山本光男氏(会員、ISO 審査員)

参加費 1,000 円

環境カウンセラーの方もご出席ください。

申込先 二宮恵 (TEL&FAX: 0436-61-2083)



第12回企業環境セミナー (2009年10月9日)

(環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵)

開催案内

第12回秋季研修会

◆日時: 11月13日(土)午前9時～21時 宿泊
14日(日)朝解散

◆場所: ファミリーINN・幕張
千葉市花見川区幕張本郷 1-33-3
(幕張本郷駅より徒歩5分)

TEL:043-271-5555

<http://www.famyinn.com>

◆参加費: 宿泊費込みで約1万円

◆テーマ: 生物多様性について

本年10月に生物多様性の国際会議 COP10 が名古屋で開催されますので、生物多様性をテーマに認識を深めたいと思います。

皆様の多数のご参加をお願いします。

申込先: FAX: 043(489)8465

E-mail: ecchibamori@yahoo.co.jp

(事業部長 茂利 晃)

新入会員紹介

塚原 道夫 (つかはら みちお)

市民部門 千葉市

私は、「みどりの専門家」であり、「みどりの活動家」でもあります。公園、森づくり、環境学習、野外活動、都市と農村交流等、みどりにかかわる事業に取り組んでいます。

「指定管理者」として、県立公園、オートキャンプ場、野鳥の森などの管理運営も行っています。

みどりは、なくてはならない大切なものです。みんなで力を合わせて、守り、子孫に継承していかなければなりません。私も微力ながら尽くしております。

よろしくお願いします。

三谷 克己 (みたに かつみ)

事業者部門 船橋市

ISO14001 のシステム構築、運用に係わってきた経験を生かして、環境に関するコンサルを行っています。

地球温暖化は、二酸化炭素排出量増加が原因と言われており、排出量削減活動の取組を推進するには皆が自分のことと考える環境意識を普及させることが必要です。

環境カウンセラーとしてこれまでの経験、知識を役立て環境意識普及活動を進めていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

上海万博雑感

顧問 荒野 喆也

中国に関する情報として温暖化ガスの排出量が、世界一となったとか、国民総生産高が長い間2位を堅持していた日本を抜いて、まもなくアメリカを次ぐ位置になるとか、とにかく、量的な面での存在感は突出してきている。

また、われわれに身近な科学技術の面での質的な面で、その躍進振りが脅威となりつつある。その躍進の原動力に触れたくて、上海万博にでかけた。

万博の成否を誇示するための分かりやすい指標は入場者数である。主催国の目標は、過去最大の6600万人(大阪万博)を抜いて7000万人をめざしているが、筆者が入場した6月4日の入場者数は約432,000人と公式発表され、ウィークデイにも拘わらずかなり混雑していた。開催期間が6か月であり、平均毎日40万人で達成出来る計算になる。しかし、開場直後は出足が悪く、中国は、全国の国有企業を中心に動員令を発し、6月になりこれが利いて、多くの団体が入場の証としての「万博パスポート」を片手に集団で展示物の見学そっこのけでパスポートへの捺印収集に励んでいた。

7月22日の発表では3300万人確保とのことで目標値はなんとかクリアできそうである。

中国館の印象は広い中国の各地域色のPRが主体であった。印象としては、チベット地域等の辺地異民族に対する心配りがかなり考慮されていた。

また、資源供給国として中国が重視しているアフリカ諸国の大きなアフリカ館があり、多くの国が力を入れ、個性あるお土産品が並んでいたが、一説には、これら土産品はほとんどが中国で生産され、知財権の面でもめているとのことで、上海万博のテーマソングの問題も含めて中国らしいところではある。

とにかく、表の世界も、裏の世界も躍動感一杯である。



受賞おめでとうございます！！

6月の環境月間にちなんで、今年は、EC千葉にとっておめでたい受賞がありました。

環境大臣 環境保全功労者表彰

戸村 泰氏 副理事長兼環境学習センター長

ECU 理事長 環境保全功労者表彰

大山 長七郎氏 廃棄物対策センター副センター長

廣川 一男氏 監事

林 正徳氏 環境学習センター副センター長

戸村氏の環境大臣環境保全功労者表彰は、当協議会にとって昨年度の土田 茂通氏について2人目の受賞であり、氏の当協議会と、ECU(NPO 環境カウンセラー全国連合会)でのご活躍が評価されました。

大山氏、廣川氏および林氏の ECU 理事長表彰で、当協議会にとっては、これまでで6人の表彰を受けたことになります。

大山氏は当協議会で長年、廃棄物対策センター長として尽力され、廣川氏は当協議会で長年、監事の重責を果たされ、かつ EMS 支援センターで ISO14001 やエコアクション 21(EA21)の県内中小企業への普及や会員の資質向上にご活躍をいただき、林氏は当協議会の EMS 支援センター長及び環境学習センター長としてそれぞれの立ち上げに尽力されたことの功労が評価されました。

各氏のこれまでのご功労に感謝し、今後の益々のご健勝をお祈りします。まことにありがとうございます。

新入会員紹介

西川 光善 (にしかわ みつよし)

事業者部門 千葉市

みなさん、はじめまして。これまで、コンサルタント会社に勤めており、主に市町村の上下水道やリサイクルセンター、ごみ処理場、最終処分場などの計画・設計や環境アセスメントなどを行ってきました。

昨年還暦を迎えて、少し自由の身になり、これまでで得た技術などを生かせる社会活動ができるのではないかと思います、当協議会に入会しました。

現在、EMS支援センターのメンバーに加えていただきました。可能な範囲で、活動に参加する予定です。

よろしくお願いします。

ECU便り

(ECU:NPO 環境カウンセラー全国連合会)

理事・ECU 担当 土田 茂通

平成 22 年 6 月 25 日に東京都北区滝野川会館で、ECU の平成 22 年度通常総会が開催された。

平成 21 年度の事業、決算、監査が報告され、つづいて平成 22 年度の事業計画、予算が説明されて、原案通りで承認された。

また今回の通常総会では、役員の任期満了により改選が行われて、理事長は上田 隆一氏から鈴木 富雄氏への交代が承認された。

1. 22 年度の事業計画と収支予算

下記の環境教育推進に関する事業を中心に構成され、収支は平成 21 年度に赤字体質から脱却しており、平成 22 年度は黒字化への編成となった。

- ① 環境教育インストラクター認定登録セミナー
- ② 緑化エコリーダー認定登録・養成セミナー
- ③ 環境主催環境カウンセラー研修
- ④ 環境カウンセラー登録対策セミナー
- ⑤ 環境教育教材監修
- ⑥ 環境教育インストラクターフォローアップ研修
- ⑦ エコプロダクツ出展
- ⑧ 環境政策研究・提言

2. 新役員と体制

理事長 鈴木 富雄氏(杉並)、副理事長 4 名、専務理事兼事務局 佐々木 進市氏(風人)が就任したほか、当協議会からの理事である、小角 浩氏が緑化委員長に、土田 茂通氏がブロック会長兼関東ブロック協議会会長に就任し、ECU は合計 36 名の体制となった。

総会終了後、理事長表彰が行われ、当協議会からは大山長七郎、廣川一男、林正徳の各氏が表彰された。

総会以外の特記事項として、環境省の平成 22 年度環境カウンセラー研修会の企画運営業務については、競争入札制に変更となり、ECU は 7 月 12 日に入札し、29 日に落札に成功した。

新入会員紹介

橋本 正 (はしもと ただし)

習志野市

私は、2010 年 3 月まで電機メーカーに勤めていました。

企業での後半の 10 数年は、全社環境管理の業務に携わる中、(社)産業環境管理協会等とも縁があつて、環境人材育成セミナーのテキスト作成・講演活動等の業務をさせていただきました。

今は、(社)産業環境管理協会の公害防止管理者受験の講師や、エコアクション 21 審査人の活動等を行っていますが、これまでの経験を活かし、識者の集まっている当協議会において、“環境で社会に貢献”していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

総務部からのお知らせ

2010 年 5 月 9 日～2010 年 8 月 18 日の間、当協議会 (E C 千葉) への寄付金として、つぎの方々がくださいました。

阿部邦夫様	38,000 円、有馬富穂様	40,000 円
國廣隆紀様	20,000 円、杉本公成様	10,000 円
戸村泰様	20,000 円、二宮恵様	36,000 円
林正徳様	30,000 円、廣川一男様	23,400 円
福井信行様	18,000 円、宮田勉様	30,000 円

ありがとうございました。

編集後記

9 月というのに猛暑が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。暑い千葉から脱出して、今年は北海道と台湾に出かけてきました。珍しいものを目の前にすると暑さも忘れてしまいました。少し気分転換を図ってみるのもすべてに効果的と実感いたしました。(TK)

広報 環境カウンセラーちば 第 39 号 (発行日 2010 年 9 月 11 日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：國廣 隆紀 会員：128 名)

URL：[http:// www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm](http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm)

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂 3 丁目 18 番 2 棟 505 号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 ec_chiba_exec@yahoo.co.jp (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 國廣 隆紀・佐藤素子・二宮 恵・松本源寿

E-Mail pxz04373@nifty.ne.jp (記事寄稿先)

再生紙を使っています。